

京交山岳部報

今月のテーマ《近畿の背稜へ》

〔第1749回例会〕

鷲ヶ岳

日時 9月9日(土)～10日(日)
集合 壬生交通局前 AM10:00
コース 京都-岐阜羽島-美濃白馬-鷲見
-鷲ヶ岳
担当者 岡田 茂久(☎822-3666)
備考 事前の連絡を忘れずに(1週間前)

〔第1750回例会〕 敬老の日登山

鷲峰山

日時 9月15日(祝)
集合 京阪宇治駅 AM8:30
コース 宇治駅-岩山…大道寺…鷲峰山
(金胎寺)
担当者 井上 一夫(☎876)
備考

〔第1751回例会〕

近江の古戦場 賤ヶ岳(422M)

日時 9月17日(日)
集合 京都駅中央コンコース
AM8:00
コース JR京都-米原-余呉…大岩山…
賤ヶ岳-山本山-虎姫
担当者 OB奥村 弘信(☎791-7450)
備考 小雨決行

〔第1752回例会〕

北山 ホサビ山・平屋富士 (△750.2)

日時 9月24日(日)
集合 7:00 壬生
コース 周山-安掛…平屋富士…ホサビ山
担当者 井戸 澄夫(☎852)
備考 車でいきます。

今月の集会

日時 9月11日(月) PM6:30
場所 厚生会館 4F大教室

企画運営委員会

日時 9月21日(木) PM6:30
場所 厚生会館 4F大教室



つわものどもの夢の跡（小谷城と丹波上林）

岡田茂久

—ひろい読む 城跡の碑文 苔さびて 崩る石垣に夏草濃し—。

小谷城跡はかねてから一度は訪ねてみたい場所の一つであった。やっと先日念願がかない、テレビの「春日の局」に影響されたのか、暑い日であったが娘たちもくっついて来て、久しぶりの家族山行となった。昨年来、私たちは府下の山々を見直すことになり、私も担当の上林川流域の山々を連登しているが、小谷城跡でその上林との思わぬ縁を発見するとは思っても寄らなかったのである。

江北の守護京極氏の被官であった浅井氏が、主家の内紛に乗じて台頭してきたのは大永3年長政の祖父亮政の時代であった。以来江北の戦国大名として覇をとなえる。亮政から三代の長政に至っては、天下統一を目指し上洛を計る岐阜の織田信長にとって、その勢力は無視できない大きな障壁となって立ちふさがる。為に信長はその妹お市御料人と長政を縁組みすることによって、その障害の憂いをなくすことにした。

しかし、信長は上洛後の元亀元年に、浅井氏とは盟友の越前朝倉氏を一乗寺谷に攻めた。義にあつた長政は意を決し北国街道にこれを挟撃し、信長は秀吉等の決死の防戦のお陰で、湖西朽木谷を経て京都に命からがら逃げ帰ったのである。お市御料人の悲劇の始まりである。怒った信長は徳川家康の援軍を得て江北に侵入する。長政は朝倉の援軍を得てこれを迎撃すべく、両軍は姉川を挟んで対峙した。

姉川は金糞岳を源流として、奥伊吹スキー場の下から虎姫を経て琵琶湖に流入する。山東町から木之本へ抜ける国道365号線が姉川を渡る橋のたもとに、小谷城跡を正面に望み姉川古戦場の碑が建てられているが、いまは車塵にまみれて辺りに両軍の死闘を忍ぶよすがもない。

両軍は姉川を血に染めて死闘を尽くしたが、近江軍に利あらず遂に小谷城に敗走を余儀なくされる。小谷城は堅城であった。小嶽（495m）から延びる尾根に大小の城郭を次々と構え、まさに全山が城であり、その規模の壮大なことは日本五大山城の名に恥じない。因みに日本五大山城とは上杉謙信の越後春日山城、御陣乗太鼓の能登七尾城、山中鹿之介の出雲富田城、湖東の雄近江源氏六角氏の織山観音寺城をいう。

さすが堅城小谷城は落城までその後3年余も持ちこたえたのである。しかし、その間に頼みとする朝倉は一乗寺谷に滅び、武田や本願寺の救援も望むべきもなく、織田の猛攻の前について落城の日を迎える。長政は父久政の側近である藤掛三河守永勝を呼び、お市御料人と三人の姫を織田の陣営に送ることを命じる。そして天正元年小谷城は落城し、城主長政以下七百人余が城と運命を共にしたのである。

近世の上林の谷の殿様の初代がこの藤掛三河守永勝で、本来なら先代久政の側近なら城と運命を

共にするはずであるが、小谷城落城は多数の武将の裏切りを主因とする説から、藤掛三河守も背信していたのかもしれない。ともあれ、藤掛三河守はお市御料人と三人の姫を連れ出した功により、但馬氷上郡小山城一万三千石を給せらることになる。ところが、関ヶ原の戦いで藤掛氏は当初西軍に組した。後、東軍に寝返ったが小山城一万三千石の大名から、上林六千石に転封され以後旗本となる。以来室町期の上林城跡麓に陣屋を構え、藤掛氏が明治の世まで上林領を治することになったということである。

帰途、小谷城跡の麓の須賀谷温泉に立ち寄った。ここでも思わぬものを発見する。”桐一葉、落ちて天下の秋を知る”片桐且元の墓である。薄暗い木陰の路傍に傾いた小さな墓石、妻は「どこまでも気の毒な人ね」と道端のあざみを手折って供えていた。

山は登るだけでなく、ちょっと事前に知識を得ていくだけで、なんとも興が尽きない山旅となるものである。

〔第1745回例会〕

（変更）矢良巢岳と鬼ガ岳

三 橋 勉

美濃俣丸へ岐阜県側から登る予定であったが、徳山村が廃村になって門入の長者平に入れないという事なので、福井県側の今庄から広野ダムの奥へ行く事になった。

7月15日、朝から雨模様の天気であったが、岡田君の車に大倉君と同乗して、とにかく出発する。木之本I.Cから、久し振りに北国街道を走る。高速道路が出来てから、こちらを走る機会がなかったが、以外と早く今庄に到着した。例によってお飲み物を調達した店で、古いわらじまでいただき、広野ダムで一服する。辺りの山々の稜線は、ガスで何も見えなかった。やがて鈴谷川林道に入っていくと、山の中腹に向かっている林道が見えた。谷から左の山の中腹へ行く林道とわかれて、なおも谷の方に進む。しばらくして、ダムを高巻くように林道は行っていたが、その手前で駐車する。

沢のぼりの登山準備をして、いざ出発とダムを高巻きかけたとき、俄かに夕立のような激しい雨に見舞われ、行く手を阻まれた。見る見るうちに、谷は増水による濁流となり、沢のぼりとしては、最悪のコンディションとなってきた。“せっかく来たのに誰が雨男なのか？”と各々が言いつつ、引き返すはめになってしまった。このまま帰るのは勿体ないからと、地図を広げて付近の山々を探した結果、越前の1等三角点を寛チャンに案内してもらう事にする。

国道8号線の武生トンネル付近の春日野から西へ行き、中津原トンネルを越え、左折して越前西部広域基幹林道1号線に入り、車で登って行くと矢良巢岳登山口に到着した。よく整備された遊歩道があり、幼木が植林されていた。雨上がりで紫陽花が奇麗に咲いていた。15分程登ると、1等三角点のある頂上に到着した。晴れていれば日本海が、目前に眺められる所に立って居るのに、残念であった。雨上がりのしっとりとした感じも悪くはないと思いながら、付近の遊歩道を散策した。

駐車地点より500mほど行き過ぎた所に降りて来た。

なおも林道を走って行くと、金華山グリーンランドという野外センターがありキャンプ等の施設があった。そこから林道をくぐり、この辺は、地元の道やと言う寛チャンの運転で次の登山口に到着。

その昔、白鬼が住んで居た、という謂れのある鬼ヶ岳の案内板があった。今度は、リックを担いで登って行った。なかなかの急登で、一汗かいたところで、子鬼展望台についた。付近の眺めが良く、遠くに武生市内が、その右後方に日野山の裾野が見えた。そこから上は、ガスの中で途中で大鬼、白鬼の各展望台があり、しっかりした道が続いていた。約50分で広々とした頂上に到着。三等三角点(533m)のそばにお岩の庄という標柱と石碑があり、大虫神宮社跡という看板があった。立派な山小屋があり、中は、奇麗に整頓され気持ち良く昼食が出来た。

下山途中で、雲の合間から日野山が望めた。寛チャンの奥さんの実家が近くなので、シャワーを使わせて戴き、さっぱりとした気分、国道8号線を走り(この日、越前海岸道路で土砂崩れの生き埋め事故があった。)、敦賀から今津へ走り、深溝村の1等三角点により、そばのオランダ風の水車のある施設で、コーヒータイムをとる。なおも帰りに北小松の県立山岳センターにより、普段わざわざ行かないのでこの際にと、楊梅の滝の落ち口まで行き、水量の多い冷たい水に触れてきた。

〔参加者〕岡田、大倉、三橋

〔個人山行〕 みちのくの名峰

「鳥海山と秋田駒ヶ岳」

梅津 吉田 武

7/20 スキーや登山によく利用する急行「きたぐに」に深夜乗り込む。

7/21 寝台車ではよく寝られたが子供達はまだ寝むようである。新潟駅で特急「いなほ」に乗り換え象潟駅でおりる。ここからタクシーで銚立まで行く。鳥海ブルーラインのドライブコースで秋田県象潟から山形県吹浦までの有料道路である。タクシー代7,000円也、今日の行程は銚立から御浜まで、標高差600mで距離にして3km位である。

3時間程かければゆっくりと歩いても御浜につくであろうとのんびりムードで歩く。午後1時すぎから歩き出したので山にはガスも出て来て展望はあまり良くない。コースの左側は200m程切れ落ちた奈曾溪谷だが、ガスが湧いて見えない。

約1時間程歩いたら残雪が出て来た。子供達はうれしそうに雪をさわりタオルに包んで頭や顔に当てていた。やがて賽ノ河原についた。広々とした草原で賽ノ河原と言うのは名ばかりで目を楽しませてくれる。ここから御浜までは1時間もあればつくだろうと思いつつ所々に咲いている高山植物を写しながらのんびりと登った。約2時間程で今日の宿舎、御浜についた。神社と宿舎を兼ねた建物で山小屋と思っていたので少しがっかりした。

神社の裏手に廻り込むと下方に鳥ノ海と雪田があり近くにはニッコウキスゲも咲きほこっていた。

宿舎では飲料水には雨水なので明日のために雪田の水をくみに行く。

ガスの晴れ間に頂上の新山2,237mや三角点2,230mのピークが見えかくれする。明日はあそこまで行って又象潟駅に帰らなければならないので早々に寝る。

7/22 AM6時に宿舎を出発した。朝もやの中を歩く子供達はまだねむそうであるが・・・扇子森まで来たら新山や三角点ピークがそそり立つように見える。標高1,800m、七五三掛^{シメカケ}より初級コースである干蛇谷コースをとった。所々雪渓を横切るので少々スリルがあって子供達も楽しそうである。約1時間程で頂上、大物忌神社についた。荷物は一つにまとめて神社に置いて新山と三角点七高山に向った。周回コースは岩登りルートで岩稜ばかりの所を歩く、親の心配をよそに子供達は楽しんでた。新山2,237m P m 1時に到着、展望は良く目の前には七高山2,230mが見える。小休止をして七高山に向う万年雪の雪渓を下りガラ場を気をつけながら登ると、一等三角点の標石がやさしく迎えてくれた。北面の矢島コースの方は雪渓と草原のコントラストが美しいすそ野である。三角点からはさきほどの雪渓を横切って神社についた。宿舎のにぎりめしとラーメンで昼食をした。多数の学生が登って来たので下山する。

ルートは行者岳、伏拝岳、文珠岳の外輪山を通して下山する。高山植物が多くの花を咲かせていた、中でもハクサンシャクナゲやニッコウキスゲがとてもきれいであった。御浜宿舎に荷物を少し置いてあったので宿舎に寄って礼を言って下山する。今日の宿舎は象潟駅の近くで泊る予定なので子供達にも無理を言って歩いてもらう。駅前の案内所で紹介してもらって象潟で泊るようにした。

7/23 今日の行程は田沢湖高原の駒草荘泊りなので田沢湖線に乗って角館に行く、角館町は小京都と言われ武家屋敷が文化財として残されているので見学をしながら一日を過ごす。

7/24 駒草荘よりバスで秋田駒八合目まで登る。駒ヶ岳西面を巻くようにルートがついている。1時間程でアミダ池畔についた、ここから駒ヶ岳三角点まで30分程で往復する。

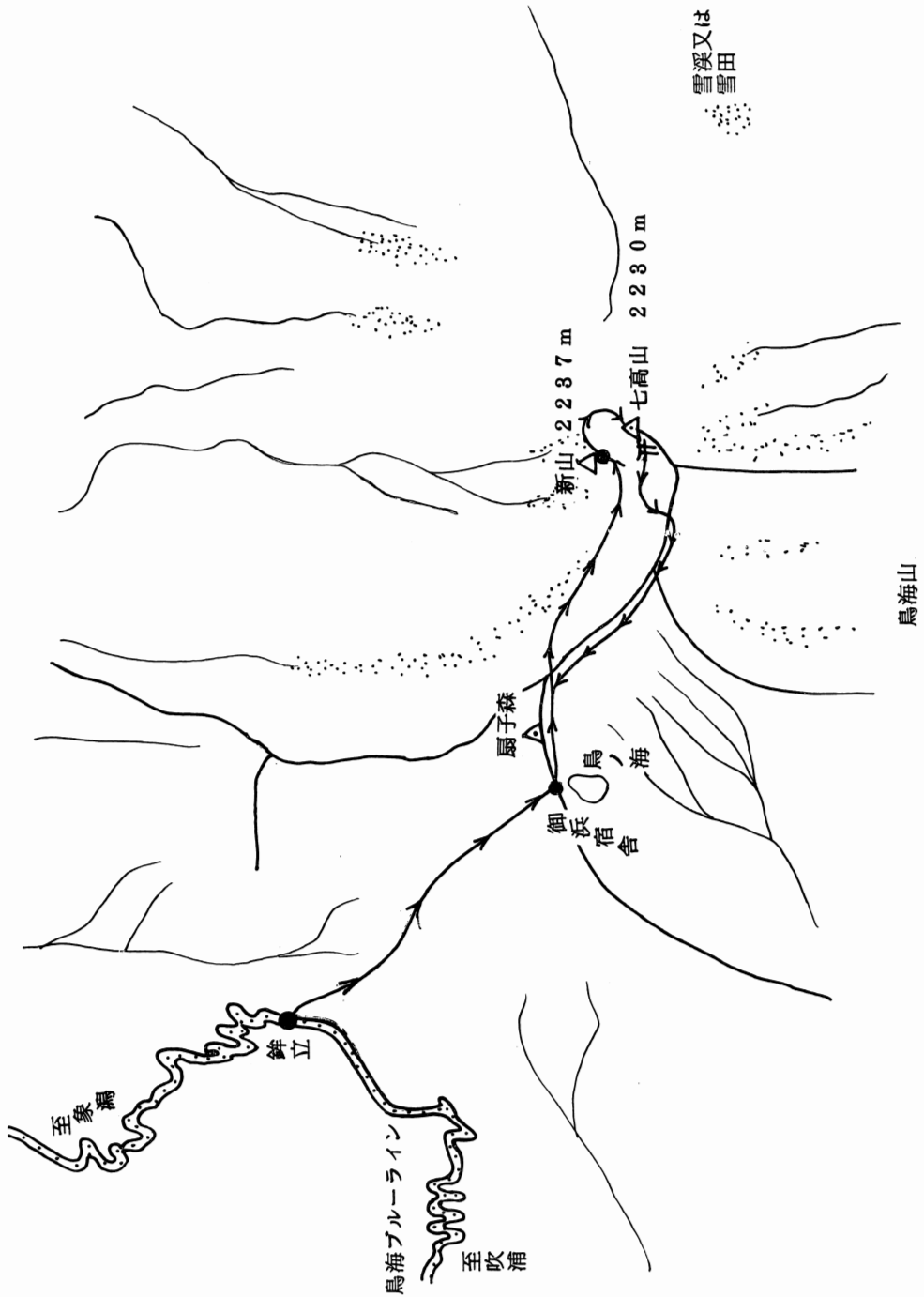
中学生の団体も登って来た。田沢湖がかすかに見え、湯森山から笹森山そして遠くに乳頭山が見えている。子供達に「あの山まで今日中に行くんや」と言うとワァーいややなあーと言う答が返って来た。

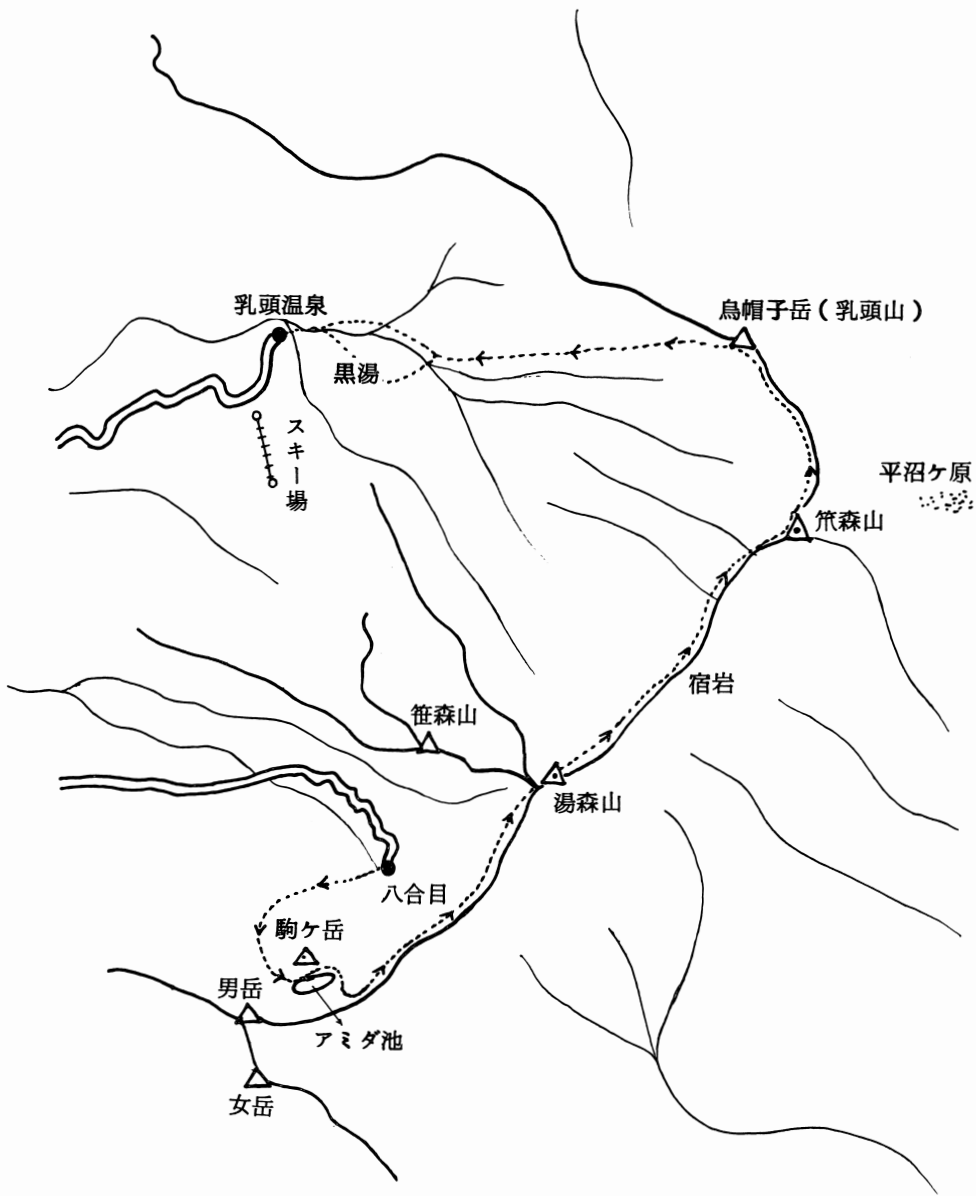
秋田、岩手県境にそって縦走路が続いている、湯森山で昼食にする。にぎりめしとラーメン、しかしなぜかラーメンが良く売れている。日陰のないピークなので熱いラーメンはどうかと思ったがおいしそうに食べている。湯森山から笹森山までコースは景色よりもただ歩くだけであった。笹森山で初めてガスの中に岩手山を見た。下方に千沼ヶ原の湿原が広がっている。以前市役所の木原さんからもらった手紙で「千沼ヶ原は尾瀬を小さくしたような湿原で花もたくさん咲いている」と書いてあったので寄って行こうと思ったが、天気と子供達の事を考えて割愛した。乳頭山の登りは30分程で頂上に立てた。雷の音がしたので早々に乳頭山を後に先を急ぐ。ここから下りだけで子供達も元気を出して歩きかけた。1時間程歩いたらイオウのにおいがして来た。所々に蒸気や温泉が出ている。やがて今日の宿舎である黒湯温泉についた。古いカヤ葺きの建物で旅館部に部屋をとる。

部屋の近くには混浴の露天風呂と打たせ湯があって手近かに風呂に入れるのが良い。ファミリー全員で入るには明かるすぎるのもう少し暗くなってからにしよう・・・

山のつかれを十分にとって就寝した。

吉田 武ファミリー 美佐子 41才、みゆき 15才、早苗 13才、康一 6才





秋田駒ヶ岳と乳頭山

〔個人山行〕

7月28日～7月31日

中央アルプス〔木曾駒・宝剣・空木〕

井戸澄夫

7月29日(土) 空木岳から駒ヶ岳へ縦走するという、あえてシンドイコースを選んだのであるが登り初めからケチがついた。池山小屋まで来たところで、豪雨の襲来を受け、約3時間、小屋での滞留を余儀なくされた。空木岳まであと5時間はタツブリかかる。山岳部の例会なら、99%以上の確率で強行方針が出るところであり、岡田部長からも敢えて無理をするくらいの登山をしろとハッパをかけられていた。どうも見透かされていたようである。衆議の結果、下山してロープウェイでとりあえず千畳敷まで行き、天候の推移を見ようということになった。標高2650Mの千畳敷では、ようやく雨が上がったばかりであった。宝剣山荘は満員で断われ、頂上空木小屋まで行くことになった。この小屋も満員ではあったが、非常にもてなしが親切であった。

7月30日(日) 風が強く、ガスっている。夜半には強い雨が降っていた。御来光はあきらめ、7時に出発する。木曾駒ヶ岳(△2956.3)は一等三角点で立派な標石があり、眺望のよいところのはずであるが、ガスのため見えず残念であった。稜線を宝剣岳へ向かって歩く。徐々に天候もおさまりだした。途中、何ヶ所かコマクサの栽培地があったがコマクサの影は見え、どうも失敗したようである。今回の山行中一度もコマクサを見ることはなかった。宝剣岳(2931m)は花崗岩の岩稜であり、三角点ではない。さほど険しい山ではないが、頂上から南への稜線は結構こわい所がある。千畳敷から軽装で登っている人がかなりいるが、どうも危ない。極楽平の分岐をすぎると人影も少なく、山屋の世界になった。天候は回復し、眺望がさくようになった。西方には、三ノ沢岳(△2846.5)が大きく横たわっている。東方には南アルプスの稜線が見える。甲斐駒、仙丈、北岳、農鳥、塩見、赤石、聖等々。塩見岳の肩には富士山が姿を見せている。これからが登山の醍醐味である。山上を仙人になったような気持ちで漫步する。俗世のウサをすべて忘れて、大自然に溶け込むのである。檜尾岳の肩には、真新しい立派なドーム型の避難小屋が立っていた。のんびりとした縦走で時間を使ってしまい、木曾殿越にたどりついたのは、PM4:30であった。木曾殿山荘は超満員で、イヤでも空木岳へ登るしか方法はなくなった。最後の力をふりしぼり、約1時間、ようやくの思いで山頂(△2864.2)に立った。南駒ヶ岳が目前に見える。御岳と乗鞍の姿が実に立派である。特に御岳をこんな美しいアングルで眺めたのは初めてであった。頂上を少し下ったところに駒峰ヒュッテがある。当初の計画では、昨日、池山尾根を登り、ここに泊まる予定であった。外観は避難小屋に毛のはえたような小屋である。

しかし、小屋の管理人をみて、驚いた。女性だったのである。この小屋は地元の駒峰山岳会が建てた小屋で、夏場だけ山岳会で管理し、その他のシーズンは避難小屋にしているそうである。今年の小屋開きは、昨日だったそうで、我々が池山小屋で雨やどりしているときに、約30人のメンバーが登ってどんちゃん騒ぎをしたそうである。そして1人の女性だけ残して今日、下山したとのことである。女性の名前は井口初江さんといい、駒ヶ根市内の方ですすでに学生の子供さんがいらっし

やるそうだが、若い頃から山に登り、いまだ山への情熱衰えずといったような女性である。非常に親切な方で、ウイスキーやら漬物やら出して下さり、2,000円の素泊り料金では申し分けない気持ちになる。益すぎまでアルバイトの高校生や山岳会の方達と交代で管理するとのことである。

我々の到着後、ほどなく2人のパーティーが長靴をはいて現われた。聞けば、千畳敷を昼すぎに出発し、もちろん木曾駒を登頂しほとんど走って、約5時間で小屋についたという。我々は約11時間かかったから、半分以下の時間しか、かかっていないことになる。1人は東京の岳登会の内藤という方で、話をしていると、相当の猛者で、一等三角点研究会の多摩雪雄氏の弟子であるとのことであった。坂井久光氏の名前ももちろんご存知で、坂井氏は京交山岳部OBであることを強調しておいた。

7/31(月) 御来迎を見ようと早起きした。日の出直前の黄金色に雲が輝くところまではよかったが、肝心の太陽が雲にかくれて姿を見せず、どうも欲求不満が残った。下りは空木平の花畑から避難小屋を経て、池山尾根を下りた。途中ヤセ尾根で、ハシゴやらがあったが、道の整備状況はよかった。駒ヶ根鉱泉で風呂につかろうと思ったが、昔の鉱泉はつぶれてしまったようなので、屋神温泉まで足をのびし、村営保養センターで汗を流した。

[コースタイム]

7/28(金) 19:00集合(九条車庫)(夕食)20:00出発(名神)-21:30岐阜羽島駅前(大木氏と合流)

7/29(土) 0:00駒ヶ根IC-0:30駒ヶ根高原(幕営)

6:00起床(朝食)7:00(車回送)8:00古城公園上出発…8:17登り口…8:34三本木地藏…9:45池山小屋(雨のため滞留)12:50下山…14:00登り口-14:48バス乗車-15:20しらび平15:30ロープウェー-15:39千畳敷16:00…16:35宝剣山荘16:50…17:30頂上木曾小屋(泊)

7/30(日) 6:00起床(朝食)7:00…7:20駒ヶ岳7:30…7:40中岳7:55…8:20宝剣岳8:45…9:37極楽平…11:12濁沢岳11:20…12:20檜尾岳(昼食)13:20…14:24熊沢岳14:40…16:05東川岳…16:28木曾殿山荘16:50…18:05空木岳…18:30駒峰ヒュッテ

7/31(月) 4:30起床(御来迎)(朝食)6:30…7:20避難小屋7:30…8:35迷尾根の頭…10:35池山小屋…10:55林道終点-14:00屋神温泉(昼食)15:30-17:00(恵那峡SA)-19:30京都

[参加者] 大杉、森塚、大木、竹田、上村、井戸 以上6名

〔個人山行〕

8月5日～8月6日

雨降る夜の伊吹山登山

山元 誠 一

8月のテーマは、＜気持は3,000mの稜線＞

その趣旨に沿っていて、しかも、3,000m級の山々と同様に、お花畑があり、条件がよければ御来光も拝める山。更に、短時間でいける山はというと、滋賀県の最高峰である伊吹山ということになる。

5年ぐらい前までは、毎年の様に、熱帯夜から逃れて、満天の星の下、夜間登山に出かけたものであったが、子育てという重い荷を背負わされる身となってからは、その重さに耐えかねて暫く遠ざかっていた。しかし、8月のテーマにも引っかけて、井上君と山口君を誘って、久しぶりに夜間登山に出かけた。

昼間の天候が良かったので、好天が期待できるものと思込み、予報も見ずに家を出た。京都駅で待ち合わせて、21時37分発の列車に乗り込み近江長岡へ。伊吹山の登山口である近江長岡には、23時7分に着いた。そこからバスに乗り込み、出発点である神社に向かう。そこは、我々と同様、夜間登山をする人で一杯で、早速、身仕度を整えて、多勢のグループと同時に出発する。最初は樹林帯の中の急な登りで一度に汗が吹き出す。一合目で大休止し、久しぶりにかいた心地良い汗を拭いとり、喉を潤してから再び歩き出す。そこからは、さわやかな風が吹く道となる。上空は、薄雲に覆われ、星は見えないものの、振り向けば、長浜市内の夜景が美しい。しかし、5合目で休息をとるところからパラパラと雨が降り出し、それが、6合目付近からは、本格的な雨となり、傘をさして歩くことに。一緒に登っていた、多くの人は傘も雨具も持っていない人が多く、ずぶぬれになって登っていた。「雨具も持たずに山に登るなんて！」なにを考えているんでしょうね。

雨の中を1時間余り歩いて、3時前に頂上に到着すると、小学生ぐらいのグループが雨に濡れながら、小屋の前で立ちすくんでいた。引卒されている方の話を聞いていると、しかたがないので、この激しい雨の中、暗い夜道を再び下るとのこと。思わず「大丈夫かな！」と考えてしまう。ほかに何か方法はないのだろうか。この子供達にとってこの山登りは一体なんだったのかな。もう山登りなんていやになってしまうんじゃないかなと。

激しく降りしきる雨の中、山口君が担いできてくれたテントを設営し、その中に逃げ込み、少しばかり、空腹を満たしたのち、シュラフの中に潜り込む。フライを持ってこなかったのも、やがて、雨がしみこんできたが、それでも、そのテントの中は、心が和らぎ何故か暖かい。外では雨が依然激しく降っている。

5時前、少し外が明るくなった頃、雨がやんだ。「東の方が明るいから御来光が拝めるかもしれないぞ！」という声で我々も起きて、食事の用意をする。ベンチレーターから外を覗くと、確かに、東の方が明るく、山々が見えたので、外に出てみた。雨の中を登ってきた者達のために、少しだけ、顔を見せてくれた、お日様と、雲の上からわずかに頂をみせてくれたアルプスの山々。あゝやっぱ

り雨の中、途中で引き返さずに登ってきて良かったなあとチョッピリ満足。

上空の雲は厚く、いつ雨がふるかわからないので早々に下山することにする。以前とかわらずに、頂上から8合目付近のお花畑には美しくカレンな花々が咲きみだれていた。そんな花々を見ていると、雨の中、いやな思いをして登ったことを忘れてしまう。花にばかり気をとられていると、滑るので、慎重に歩く。7合目付近から再び雨が降り出したので、傘をさす。休息もとらず歩き続け、1時間余りで3合目に到着。雨が激しく降ってきたので、新設されたゴンドラリフト(ホテル横)で降りることにし、時間があつたので、ビールで喉をうるおす。この一杯の味が忘れられずにまた山に登るのでしょうネ! きっと!

歩けば1時間程度かかるところをわずか5分で登り口である神社に着く。さすがに文明の利器は有難いものである。(軟弱な!といわれそうですが)

〔同行者〕井上、山口

例会報告

例会№	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記事
1745	矢良巣岳 ・鬼ヶ岳	7月15日	雨	岡田 茂久	三橋、大倉	別稿詳報
1746	愛宕山 (厚生会登山 トレーニング)	7月30日	晴	古市 昌造 津田 実	奥村、横井、今井、津田F1、 和田、吉田F2、三橋F1、方山 古市F1、田村、原田、宮川F2 岡田、大倉F1、木津、木村、 西村、上田、大野F2、大切、 山口、 以上 28名	

雑報

✿ 8月の集会

8月8日(月)場所 厚生会館4F

出席者(本局)岡田、古市、三橋、和田、方山

(高速)大倉、山岡

(九条)上島 (市役所)荒田 (OB)今井

以上 10名

内容 例会報告他

✿ 他山岳会の会報

8月分 趣味の登山、京都山岳、山友、木雞、青嶺、日本山岳会京都支部だより(№16)、
比良山岳、近畿山行、北山

✿ 新入部員

(九条) 岩野 誠司 S. 42.3.27生 O型
住 所 滋賀県近江八幡市中小森町666-15
T E L (0748) - 33 - 7215

(高速) 山岡 昭弘 S. 35.1.28生 B型
住 所 山科区東野中井ノ上町3-54
T E L 594-3824

✿ 平成元年度 山岳遭難救助研修会報告

京都から大倉寛治郎(高速)と斉藤(消防局)が参加
期 日 7月22日~7月26日
場 所 文部省登山研修所(富山県中新川郡立山町千寿ヶ原)
実技……雑穀谷岩場
主 催 文部省 後 援 日本山岳協会
内 容 約40名が7班に分かれて、ザイルを使用した救助方法等について研修を受けた。

✿ 千種町主催「第2回ふるさと名勝登山大会」のお知らせ

10月22日(日)後山(△1,345m)他3コースで実施
参加希望者は岡田部長まで

✿ 京都府山岳連盟 岩登り救助訓練、研修、検定のお知らせ

日 時 9月22日~24日
場 所 鈴鹿山系 御在所岳藤内壁
集 合 22日AM7:30 市役所前
参加費 5,000円
備 考 参加希望者は9月15日までに(梅津)吉田 武まで

❁ 「京交山岳部創設40周年記念集会」

京交山岳部創設40周年を記念して、7月19日午後6時から、京都社会福祉会館において、記念集会が開催されました。

第1部は、日本山岳会京都支部長 斉藤惇生先生の講演で、1985年のナムナニ峰登頂および今年の5月5日、斉藤先生が北側統括隊長をされた三国友好チョモランマ登頂等を、スライドを交えながら約1時間30分楽しませていただきました。

第2部は、祝賀会で和気合々のなか、お祝いにかけつけて頂いた京都を代表する多数の登山家の方々より、お言葉をいただきました。又、それに対して、初代部長 近藤 薫氏がお礼の言葉を述べました。

記念集会に来賓として来られた方々は次のとおりです。(順不同、敬称略)

斉藤 惇生	日本山岳会	尾関 大典	京都山友クラブ
角倉 太郎	日本アルカウ会	粟飯原 一成	京都山岳会
松浦 勇次	京都山岳会	高田 収	京都山友会
風間 安三	京都比良山岳会	三谷 忠男	一等三角点研究会
金久 千津子	北山クラブ	横田 明男	京都山の会
宮村 未初	京都趣味登山会	住 貴行	北斗プリント社
西尾 寿一	京都山の会		

京交山岳部記念集会参加者

OB 近藤 薫、坂井 久光、奥村 弘信、津田 実、横井 襄二、今井勇一郎、
河村 清、上田 隆

現役 岡田 茂久、鷺見 敏一、大槻 雅弘、渡辺 智生、古市 晶造、若山 裕孝、
三橋 勉、原田加津子、和田 良一、方山 宗子、田村 政弘、井戸 澄夫、
大木 秀実、竹田 勉、川原 傳治、山口 雅直、出海洋三、大倉寛治郎、
河合 秀晃、吉田 武、田中 忠久、山田 富男、岡本 義弘、上島 和彦、
鷺見寿未子、篠田 勝美、荒田又之助、楠 とし子

以上 49名



御 婚 礼
御 引 越



地方宅配
運搬専用

きおん菊水運送株式会社

山科配車センター・京都市山科区西野山階町12-12

TEL (075) 581-3101
祝 い さ い わ い

本 社・京都市東山区大和大路通四条下ル
TEL (075) 541-2345代

お 知 ら せ

御得意様各位

平素は、格別のお引きたてにあずかり厚く御礼申し上げます。

昭和63年6月より、新住所にて営業致します。旧倍に増して、御来店の程心よりお待ち申し上げます。

記

新住所 〒600 京都市下京区不明門通り六条下る西側
(烏丸通りより1筋東の通り)
TEL 075-351-6598代

(株) 小林地 函 専門店

SINCE 1980

THE LOG CABIN CO.

H.HASEGAWA'S SHOP

FOR ALPINISTS

KYOTO JAPAN

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定

サンコークラフト

西 島 輝 雄

左・川端丸太町下る下堤町88
TEL (075) 771-3442

帆 布 ・ 濾 布
テ ント ・ シ ー ト
雨 合 羽

木村工業有限公司

京都市中京区ミブ車庫前

TEL 801-5331 (代)

西大路営業所

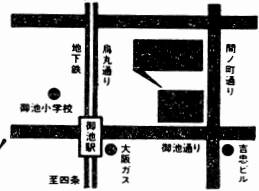
下京区西大路七条下ル

TEL 321-0251

登山とアウトドア専門店

今、アウトドア派大集合!!

- 登山用品はもちろん、
注目のスポーツ
カヌーをはじめ、
ひと味違う充実の
品揃えは必見のもの!!



ビッグホリイケ

営業時間 AM10:00~PM9:00 <年中無休>

京都市中京区御池通高倉西入(千代田生命京都御池ビル2F)

☎(075)222-0363

京都で唯一の山の専門店

Now Out door sports

ハイキング&キャンピング・クライミング
アウトドアウェア・US産出品
ポータイスカウト用品

Mountain

〒604 京都市中京区二条通河原町西入

TEL 075(268)-0548

●営業時間 AM10:00~PM8:00 毎週火曜定休
●(株) スポーツ コニシ

075-268-0548

- 技術とサービスの創る!印刷

株式会社

北斗プリント社

タイプ・写植オフセット印刷 ● 電子写真印刷

〒606 京都市左京区下鴨高木町38-2(バス停前)

TEL(075)791-6125(代)

FAX(075)791-7290

平成元年 9月 1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内

京交山岳部